

# 平成24年度 病害虫発生予察情報 予報第4号

平成24年6月29日  
広島県東部農業技術指導所

## 1 発生予察情報

### (1) 水稲 (6月下旬調査)

■適用地域：中部地帯

病害虫名	発生量 (平年比)		防除上の注意事項
	現況	予想	
イネクビ ホソハムシ (イネドロ オイムシ)	並～ やや多	並	・前年度多発生したほ場では、発生が多くなる傾向があるので、注意する。 ・地域により発生量及び発生ステージにばらつきがあるので、ほ場をよく観察し、幼虫心化最盛期に1株当たりの平均幼虫数が12頭以上の場合は、防除する。
葉いもち	並 (発生なし)	並	・ほ場内で葉色の濃い箇所や日当たりの悪い箇所などを重点的に観察する。 ・中山間地の常発地や本病に対する予防剤を施用していないほ場では、発生が見られたら直ちに防除を行う。 ・置き苗は、感染源となるので早急に処分する。 ・目標茎数が確保されたら、中干しによる茎数管理を行い、過剰分げつを抑制して健全な稲体づくりを行う。

\* 予想は、次回調査時期 (7月上旬) までの予想発生量を示しています。

## 2 その他病害虫の発生状況

作物名	病害虫名	現況	病害虫名	現況
水稲 (中部)	セジロウンカ	少～やや少 (発生なし)	トビイロウンカ	並 (発生なし)
	ヒメトビウンカ	少 (発生なし)	フタオビコヤガ	並
	紋枯病	並 (発生なし)		

## 3 予報の根拠

### (1) 水稲 (6月下旬調査)

#### ア イネクビホソハムシ (イネドロオイムシ)

##### (ア) 巡回調査結果

平年並～平年に比べやや多い発生であった。(調査地点によって発生量にばらつきがあった。)

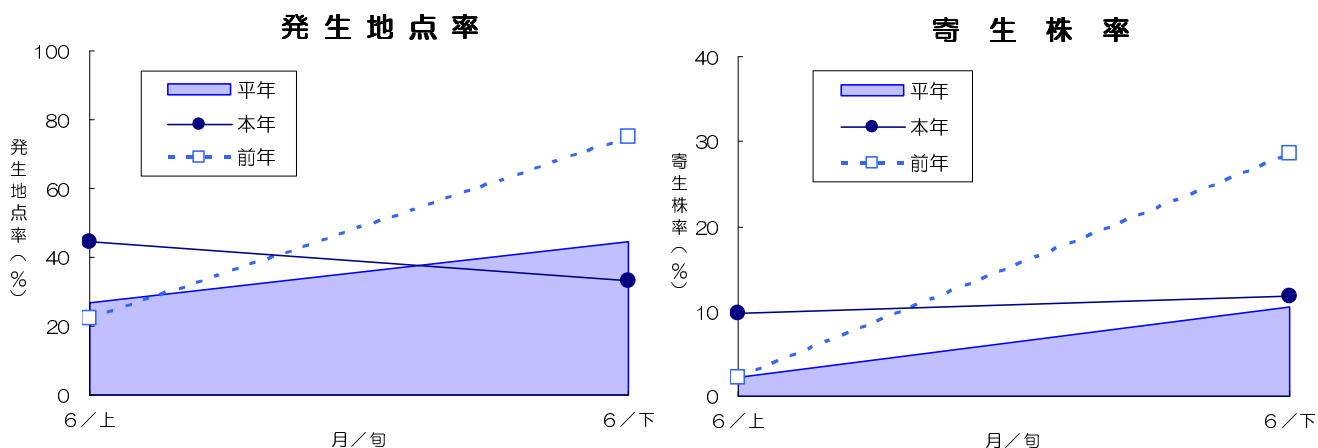
・発生地点率：33.3% (平年値 44.6%)

・寄生株率：11.8% (平年値 10.5%)

##### (イ) 今後の気象

平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みで、発生に好適である。

(ウ) 調査結果の具体的な数値 (グラフ)



イ 葉いもち (中部)

(ア) 巡回調査結果

平年並の発生であった (発生なし)。

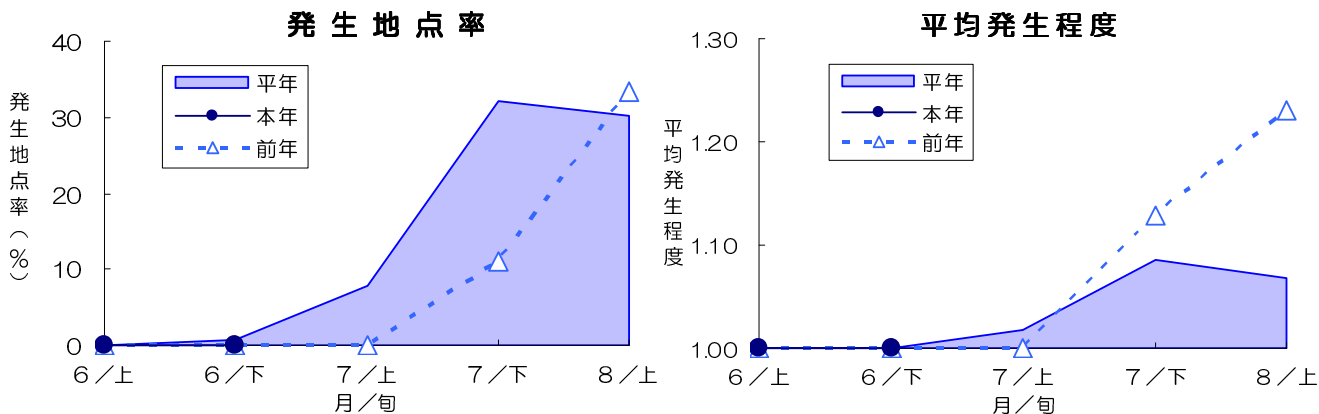
(イ) 今後の気象

平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みで、発生に好適である。

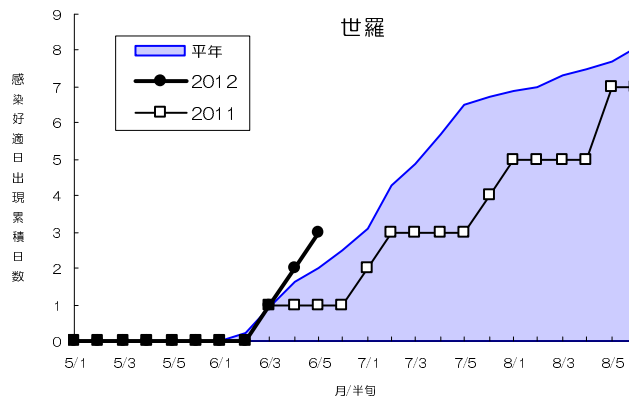
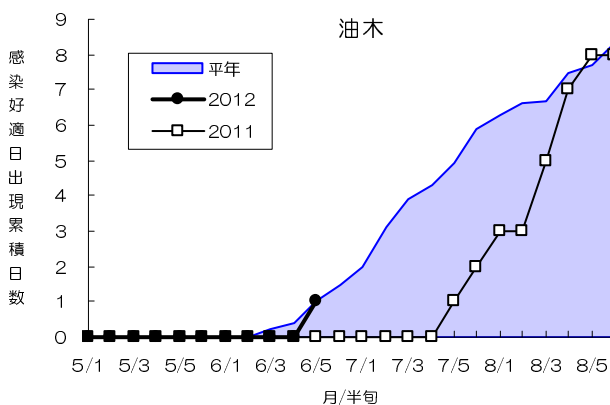
(ウ) BLASTAM (いもち感染好適日判定モデル)

いもち病感染好適日は、油木では6月第5半旬、世羅では6月第3, 4及び5半旬に出現している。

(エ) 調査結果の具体的な数値 (グラフ)



BLASTAM (いもち感染好適日判定モデル)



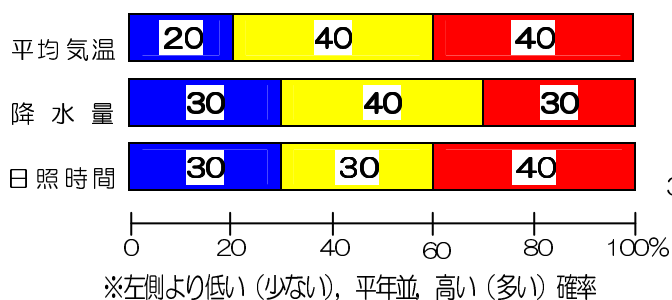
(2) その他病害虫の巡回調査等結果

作物名	病害虫名	現況	地点率 (平年値)	発生率等 (平年値)	特記事項
水 稻	セジロウンカ	少～ やや少 (発生なし)	0% (20.9%)	平均発生程度 1.00 (1.01)	6月28日現在, 予察灯, 予察 田への飛来は認めていない。 (福山市)
	トビイロウンカ	並 (発生なし)	0% (0%)	平均発生程度 1.00 (1.00)	6月28日現在, 予察灯, 予察 田への飛来は認めていない。 (福山市)
	ヒメトビウンカ	少 (発生なし)	0% (19.8%)	平均発生程度 1.00 (1.01)	
	フタオビコヤガ	並	11.1% (22.7%)	発生株率 0.4% (1.5%)	
	紋枯病	並 (発生なし)	0% (0%)	発生株率 0% (0%)	

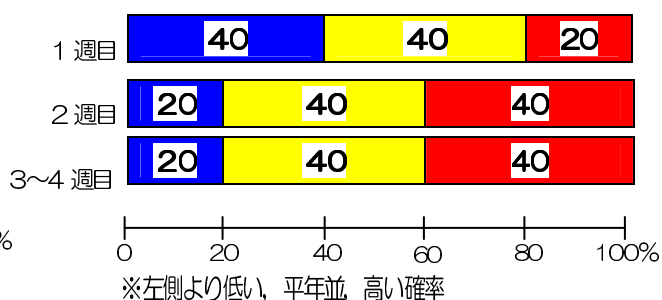
4 気象情報

- 中国地方1か月予報 (平成24年6月23日～7月22日) 【広島地方气象台6月22日発表】  
 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は, 平年並または高い確率ともに40%です。

□向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率(%)

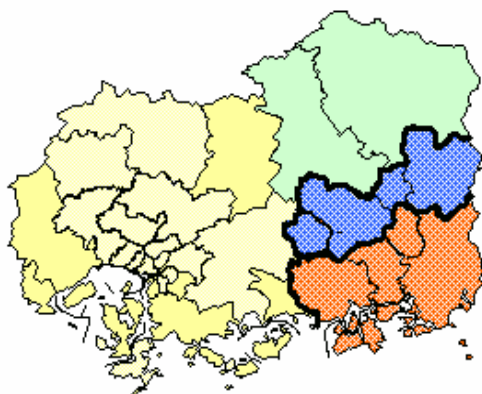


□向こう1か月の気温経過の各階級の確率(%)



## 5 情報にかかる用語説明等

### (1) 地帯区分



地帯区分		該 当 市 町
県東部	中部	三原市久井町, 三原市大和町, 世羅町, 府中市上下町, 神石高原町
	南部	三原市(久井町, 大和町を除く), 尾道市, 福山市, 府中市(上下町を除く)

東部農業技術指導所管内【中部地帯】

東部農業技術指導所管内【南部地帯】

### (2) 平 年 値

過去10年間(平成14年~平成23年)の平均値です。

### (3) 予想発生量・現況

原則として過去10年の数値をもとに気象予報等を参考にして、本年の発生量がどの程度かによって次の5階級に区分して予報しています。

- 多 … 予想発生量が過去10年の最大値と同程度の場合を表します。
- やや多 … 予想発生量が過去10年の2~3番目に多い値と同程度の場合を表します。
- 並 … 予想発生量が過去10年の4~7番目に多い値と同程度の場合を表します。
- やや少 … 予想発生量が過去10年の2~3番目に少ない値と同程度の場合を表します。
- 少 … 予想発生量が過去10年の最小値と同程度の場合を表します。

予想発生量	多	やや多		並				やや少		少
過去10年間の値(多い順)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

なお、現況欄についても予想発生量と同様の方法によって現時点の発生状況を5階級に区分し、表記しています。

### (4) 平均発病(発生)程度【水稲いもち病, セジロウンカ】

平均発病(発生)程度1.00は、発病(発生)が無かったことを示します。数値が高くなるほど発病(発生)株が多くなり、株ごとの発病(発生)程度が甚だしくなります。

## 6 その他の情報

### (1) 農薬危害防止運動の実施について

広島県では6月1日から8月31日までの3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施します。

農薬の使用に当たっては、使用基準を遵守すると共に飛散防止に努めましょう。また、農薬は鍵のかかる場所へ保管するなど、農薬による危害防止に努めましょう。

なお、平成24年度農薬危害防止講習会の開催を次のとおり予定していますので、積極的にご参加ください(事前申し込み不要)。

月 日	時 間	開 催 場 所
7月 3日(火)	13:30~17:00	広島県福山庁舎 第一庁舎141会議室 【福山市三吉町一丁目1-1】

**(2) 各種情報提供**

■病害虫発生予察情報について

病害虫発生予察調査データ（フェロモントラップ及び巡回調査データ）や広島県病害虫・雑草防除基準が掲載されています。適切な病害虫防除に活用してください。

掲載場所：広島県HP「病害虫防除」

（[トップページ](#) > [分類でさがす](#) > [しごと・産業](#) > [農林水産業](#) > [農業](#) > 病害虫防除）

【アドレス】 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/84/byougaicyuuboujiyo.html>

■メールマガジン「ひろしま県 病害虫情報お知らせメール」の配信について

広島県では、携帯電話等のメール機能を活用した農作物病害虫等の情報配布サービスを行っています。広島県HP「病害虫防除」に記載の手順で登録していただき、現場指導等に活用してください。なお、詳しい内容は、広島県HP内の「病害虫防除」で確認してください（上記参照）。

掲載場所：広島県HP「ひろしま県病害虫情報お知らせメールの配信について」

（[トップページ](#) > [分類でさがす](#) > [しごと・産業](#) > [農林水産業](#) > [農業](#) > 病害虫発生予察情報）

【アドレス】 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/40948.pdf>

■テレホンサービス

農業技術指導所（病害虫防除所）では、病害虫の発生状況をできるだけ速やかにお知らせするため、テレホンサービスを行っています。

気象条件等により発生が大きく左右される病害虫や、ウンカ等の長距離移動性害虫の飛来状況などの情報収集に役立ててください。

地 域	電 話 番 号	対 象 市 町
尾三・福山	082-429-3032	三原市, 尾道市, 福山市, 府中市, 神石高原町, 世羅町

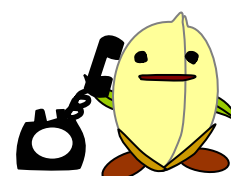
**(3) 次回予察情報の発表予定**

次回の病害虫発生予察情報（予報第5号）の発表予定は、7月上旬です。対象は、水稻です。

**(4) 今回の病害虫発生予察情報に関するお問合せ先**




東部農業技術指導所 病害虫防除チーム（東部病害虫防除所）

【福山市三吉町一丁目1-1, 電話084-921-1311（内線3810・3811）】

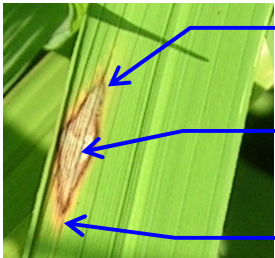



## 7 病害虫図鑑

### ■イネクビホソハムシ (イネドロオイムシ)

	【卵塊】	<p>越冬成虫が本田に飛来して葉面に卵を産み、羽化した成虫は越冬場所に移動する年1化性（1年に1回発生）であり、山間地などの冷涼な地域で発生しやすい。多雨で湿度の高い日が続くと幼虫の発生期間は長く、多発生になりやすい。</p>
	【幼虫と食害痕】	<p>幼虫孵化最盛期は例年6月中下旬であるが、7月上旬に入っても幼虫の発生が多いほ場も認められることがある。曇りや雨の日が多い場合は、発生が長期化する可能性があるので注意する。</p>
	【マユ (中に蛹)】	<p>被害葉が多く見られるほ場でも、蛹や羽化成虫の発生時期に移行している場合があるため、幼虫の発生状況を確認して防除の要否を判断する。</p> <p>要防除水準は、幼虫孵化最盛期に株当たり平均発生幼虫数12頭以上である。</p>

### ■いもち病

	<p>壊死部 (褐色)</p> <p>崩壊部 (灰色)</p> <p>中毒部 (黄色)</p>	<p>最低気温が 16℃を超え高湿度条件が数時間続くと胞子が形成される。この胞子が飛散、イネの葉の上に付着、発芽し組織内へ菌糸が侵入し発病する。</p>
【葉いもちの病斑】		<p>胞子の発芽には水が必要で、この感染に好適な条件を予測するシステムがBLASTAMである。</p>
	【葉いもち・ズリコミ症状】	<p>葉いもちの病斑には、大きく2つに分けて慢性型病斑と急性型病斑がある。</p>
		<p>【慢性型病斑】 左の写真・図にあるような褐色で縦方向に長い紡錘形（ぼうすいけい）のもので、最も一般的に見られる病斑である。</p>
		<p>【急性型病斑】 円形または楕円形の病斑で、慢性型病斑と異なり褐色の壊死部がなく、一様に暗緑色あるいはネズミ色であるのが特徴である。</p>
		<p>急性型病斑は、病斑拡大が早く、胞子の形成も非常に多いことから、伝染力の強い病斑型で最も注意が必要となる病斑である。</p>
		<p>薬剤防除などをするると病斑の周囲に褐色または黄色の中毒・壊死部が生じ、次第に慢性型病斑へと変化するため、防除効果の判断材料にもなる。</p>